

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 各学年とも、当該学年の漢字の読み書きは、ドリルや漢字ノート等を使った繰り返しの練習を指導したことで、概ね身に付けることができた。
- 6年生では、文章量を意識して意見をまとめる指導の成果で、字数に合わせて記述する力が付いてきた。
- 話し合いをもとに自分の意見をまとめたり、考えを深めたり、文章の読み取りの感想の共有をしたりする力が伸びてきた。

(2) 課題

- 今年の大田区学習効果測定の結果を見ると、観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」、領域別では「書くこと」、解答形式では「記述」で、目標値を下回った。語彙・言葉の特徴や使い方に関する事項の知識・理解の拡充と共に2段落構成で文章を書く、自分の考えとそれを支える理由を明確にして書くなど、書く力を育て、主体的に学習に取り組む力を伸ばしていくことが課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	目標値をやや下回っている。		
第5学年	目標値を僅かに下回っている。	目標値をやや上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	目標値を上回っている。	目標値をわずかに下回っている。 (第5学年時)	目標値を僅かに上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 目標値、区の平均を共に下回っている。 主語と述語の関係についての問題と、ローマ字表記についての問題で目標値を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値、区の平均を共に下回っている。 話の中心を捉える問題や、情報と情報との関係を理解し、要約する問題で目標値を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を大きく下回っている。 文章を書く問題の無解答率が高く、記述式の問題に取り組めていない児童が一定数いる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 5年生は目標値と同率で、6年生は目標値を上回っている。 5年生は、語彙や修飾語、指示語といった言葉の学習は概ねできていたが、前年度の漢字の読み書きで、目標値と同率、あるいは下回る問題が多く見られる。 6年生は、前年度の漢字の読み書きで目標値を下回る問題もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生は目標値をやや下回り、6年生は目標値を少し上回っている。 5年生は文章の読み取りについては目標値を上回ったが、文章を書くことについて目標値を大きく下回った。 6年生は物語の読み取りについて目標値を大きく上回り、説明文の問題について目標値を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生は目標値を下回り、6年生は目標値を上回っている。 文章を書く問題の無解答は、6年生でも見られるが、5年生の無回答率が高く、記述式の問題に取り組めていない児童の割合が高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平仮名・片仮名・漢字の読み書きを繰り返し練習し、日常的に使うことで、しっかり定着させる。主語と述語が噛み合わない文のねじれ等をその時々で指導する。読み聞かせや朝学習で、語彙を増やす。	感想や理由を入れた自分の考え、つなぎ言葉を入れた簡単な説明など、児童の実態に応じた手本文や話型を用意し、文章を書いたり話したりすることに慣れさせる。	学習課題やポイントを明示し、進んで取り組めるようにする。また、ICTを活用し、視覚的に理解できるように工夫する。2人組での感想や考えの交流を、日常的に取り入れる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙を増やす為、国語辞典と共に漢字辞典も日常的に活用させる。読み聞かせや、主語と述語の関係に関する朝学習プリントも実施する。タブレットのローマ字入力を日常的に行い、ローマ字になれるようにする。	説明的な文章は、中心となる語や文章に、傍線を引いてつながりを意識して読ませる。自分の考えが明確になるよう、事例を挙げて話したり書いたりさせる。長さを指定して書く機会を増やす。例文も用意し、どの子も書ける工夫をする。	進んで取り組めるよう、自分達の学習課題を考えさせたり、教材が身近に感じられるよう、ICTを活用したり、導入を工夫する。また、ICTを使って、相手意識をもち、感想や考えを交流する機会を増やす。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習った漢字を文・文章の中で使うよう指導する。日常的に国語辞典を使う習慣を身に付けさせる。語句の意味や使い方に対する認識を深められるよう指導する。	数種類の資料を通して、資料を読むポイントを理解させる。書くことでは、文章の構成を意識し2～3段落の文章を書く練習をする。説明文の中心となる語や文を見付け、大事なところを捉え、決められた時数で要約する活動を積極的に行う。	ICTを活用し、相手意識をもって感想や考えや作品を交流する機会を増やし、多様な考えと比較してより理解が深まることを実感させる。

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・調べ学習には意欲的に取り組むことができた。
- ・学習効果測定において、昨年度課題とされていた記述問題では、目標値と同程度の正答率であった。

(2) 課題

- ・地図、グラフ、写真等、資料の読み取り問題の正答率が低い傾向にあった。
- ・知識、技能の問題の正答率が低い傾向にあった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	/	/
第5学年	目標値に対して、平均正答率を上回っている。	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	/
第6学年	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	目標値に対して、平均正答率を下回っている。	目標値に対して、平均正答率を上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・安全な暮らし（火事）、くらしの移り変わりの単元では、目標値を下回った。 ・市の様子単元では、地図の読み取りを除き、目標値と同程度だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の様子移り変わり、安全な暮らし（火事）の単元以外は目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に目標値を上回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県の様子、ごみのしよりと利用の単元では目標値を上回った。 ・先人のはたらき、日本の国土と人々のくらし、自然環境と国民生活、世界の中の国土の単元では目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年は全体的に目標値を上回った。 ・6年は全体的に目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年は全体的に目標値を上回った。 ・6年は全体的に目標値を下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・四方位や地図記号の定着を図るため、地図帳を活用しながら、繰り返し確認が必要である。 ・安全なくらし、くらしの移りかわりでは、実際に話を聞いたり、写真や映像資料を活用したりしながら知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り、まとめる活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を自分事として捉えられるように、身近な事象や具体物を用いるなど、導入を工夫する。 ・見通しをもった学習計画を立てるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集に書かれている文章や図、グラフなどを繰り返し正確に読ませていく。 ・国の位置や海流などは、教室掲示などを行いながら定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の数値を正確に読み取るだけでなく、複数の資料を比較するなどの見方を身に付けさせる。 ・NHK for School 等、映像資料を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を自分事として捉えられるように、身近な事象や具体物を用いるなど、導入を工夫する。 ・見通しをもった学習計画を立てるようにする。

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験器具の名称や正しい使い方を意識的に指導したり、観察の視点を明確にする指導を繰り返したりしたことにより、実験の技能の定着と学習意欲の向上が見られた。
- ・まとめの時間を確保し、自分の言葉でまとめようとする経験を積むことができた。

(2) 課題

- ・図やグラフ等を活用した表現を、共通点や違いに着目して読み取り、考えたり説明したりする力の向上。
- ・事象やデータの相違点を見付けることにより、なぜその違いができるのか、その理由を明らかにするための条件制御のある実験方法を自分で考える力の向上。
- ・学習したことが、どのように自分たちの生活に生かされているかという視点をもたせる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	目標値より下回っている。	/	/
第5学年	目標値より下回っている。	目標値より上回っている。	/
第6学年	目標値より下回っている。	目標値より下回っている。	目標値より下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほぼ、目標値に達している。エネルギーの分野の磁石の性質と物の重さに課題がある。	実験の結果から問題を見出したり、分かったことや理由を明確にして説明したりすることに課題がある。	観察や実験に対して、授業では意欲的に取り組んでいるが、実験方法の説明を記述したりすることに課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に理解度が低い。特に生命・地球領域の基礎となる知識や、物理・エネルギー領域の物の溶け方や電気の働き、顕微鏡の使い方に課題がある。	実験方法を考える際に条件制御等を考えたり、グラフなどの情報を活用し共通点や違いを見つけて指摘したりすることが苦手な傾向がある。	観察や実験に対して、授業では意欲的に取り組んでいる。流れる水の働き等で学んだことを、実際の防災の工夫に繋げていく等のところに課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目に見えず理解しにくい磁石の性質や物の重さなどを、手ごたえを感じたり、周りの物の動きを見たり、量って調べたり等の具体的な活動を通して体感・実感させ、理解に繋げる。実感を伴った確かな知識を定着させていく。	実験の結果から、違いや共通点に着目して問題を見出したり、理由を明確にして説明したりする活動を増やす。回数を重ねることにより、その際の話型も定着させる。	身近な教材の利用と簡単な工夫のできる実験活動を学習活動に取り入れると共に、実験方法の説明や結果から分かったことの言語化を意識的に行わせる。ICTを活用し、友達の考えにも触れられるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グラフから変化を読み取る力や過去の実験結果から予測する力など、見通しをもって学ぶ活動を取り入れていく。顕微鏡など実験器具の正しい使い方は、掲示していつでも確かめられるようにする。	実験を行う前に既習事項の確認を行う。学校で実施可能な実験方法を考える時間を確保する。その際、条件制御などを意識させる。また、ICTを活用し、実験結果をグラフなど違いが分かりやすい方法で表現し、共通点や相違点を見付けてその意味を考えるようにする。	学習内容が、自分たちの生活のどこに生かされているのかを取り上げ、防災の工夫や生活を便利にしたり豊かにしたりしていることに目を向けさせる。

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱や鑑賞活動において、音楽的要素に気付いて曲を分析し、表現を工夫しようとする姿勢が見られた。
- ・ペアワークやグループごとの演奏などを取り入れることにより、児童が協働的、主体的に学習する姿が多く見られるようになった。

(2) 課題

- ・音楽的要素と関連付けた曲の理解はできるが、自ら考え、表現に生かすまでには至らない。主体的に表現を工夫するための基礎的な知識・技能の定着を図っていくとともに、仮説を立てて実験的に表現する体験をするなど、実感をもたせながら表現の方法を身に付けさせたい。
- ・基本的な知識や技能が定着している児童と十分でない児童の差がみられるので、スモールステップで学習に取り組ませることによって、定着を図るようにする。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タンバリンやカスタネットなどの身近な楽器や歌唱の基本的な演奏方法を理解させる。曲想と音楽の構造などの関わりに気付かせる。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽表現をする上でどのように表したいか思いをもって演奏したり聴いたりさせる。	・身体を動かしながら身の回りの音楽に楽しく関わり、友達と音楽活動をする楽しさを感じられるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な楽器や様々な歌曲に触れる機会を増やし、基礎的な技能を身に付けさせる。また、表現の工夫に繋げるための知識を音楽的要素と関連させながら身に付けさせる。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、仮説を立てて表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、ペアワーク等を通して進んで音楽活動に関われるようにする。様々な音楽に触れる機会を増やし、感じたよさを伝えあう場を設ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を確実に身に付けさせる。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、仮説を立てて表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、グループワーク等を通して主体的・協働的に音楽に関わり、感じたことや気付いたことを、根拠をもって伝えることができるようにする。

令和5年度 図工科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・図画工作でタブレットを活用することに慣れてきた。
- ・自分の発想を作品に表現する姿勢が見ることができた。
- ・友だちの作品、名画ともに楽しみながら鑑賞することができた。

(2) 課題

- ・道具類の扱いと知識が少ない。課題をこなしながら知識と経験を積み重ねることとする。
- ・友だちへ鑑賞の言葉がけがうまく行かず相手に伝わらないことがある。言葉による表現を学べる場が必要と考える。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手や体全体の感覚や技能を働かせてつくる活動を多く設定し、身近な材料や扱いやすい用具で色や形を試しながら、経験的に技法を身に付けさせていく。	感じたことや想像したことから、表したいことやつくりたいものを見つけて表せるよう、造形遊びの中で楽しみながら試していく活動を多く取り入れる。	進んで表したり見たりして造形活動を楽しめるよう、身近にある多種多様な材料を基に、体を使って楽しみながら取り組める素材体験活動を増やしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前学年までの材料や用具についての経験と既習に重ね、新たな用具を正しく安全に使うための基礎技術と、表現によっての使い分ける技能を、繰り返し習得させていくことに時間をかけていく。	身近な材料や場所などを基に発想してつくることのできるよう、教室以外の場も活用し学習環境に変化をもたせる。みんなで考えを共有できるような場面設定を行い、鑑賞の際の語彙を増やす。	進んで表現したり鑑賞したり、つくり出す喜びを味わえるような題材選びと、目的や面白さ、学習ルールなどを共有できる活動を工夫し組み込んでいく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の表現に適した方法を選択したり、組み合わせたりして創造的な技能を総合的にはたらかせて表現できるよう、様々な材料や用具を揃え、試せる環境を充実させていく。	材料や場所の特徴を基に構成したり、自分が表したいことや伝えたいことを見つけて構想したりできるよう、作品により思い入れをもちやすい題材を設定し、目的や用途に目を向けて考えさせていく。	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、自分の表したいことを見つけて表せるよう、児童の個々のテーマをもたせ、イメージと見通し（計画）を確認しながら活動できるようにする。

令和5年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技能習得の場面では、ICT教材を効果的に活用しながら指導を行うことができた。
- ・感染症予防対策をとりながら、可能な限り調理実習を実施することができた。
- ・衣食住などに関する実践的・体験的な活動への関心は高く、技術面で個人差はあるものの裁縫・調理・洗濯などの活動に意欲的に取り組んだ。

(2) 課題

- ・生活実感が乏しかったり、家族の一員としての自覚がもてていなかったりするためか、学習が自分ごとになっていない。学習の前段階として既習事項や生活経験等、児童の実態を把握した上で課題を設定し、実生活に生かせる学習にすることで、児童の主體的な取り組みを促す。また学習後には、レポート課題などとして家庭での実践を計画的に取り入れて評価する。
- ・学習を通して自分の考えの幅を広げ、課題解決に向けた選択肢を増やしていく必要がある。そこから、各自の課題に合わせ、数ある考えの中から、よりよい生活に向けてすべきことを選び取れるようにしていく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に合わせた技能習得の場を設定し、ICT教材を活用しながら指導を行う。 ・用語・用具の使い方も知識として習得させる。 ・児童自らが課題を設定し、解決のため学習を進める問題解決型学習を行うことで、学んだ知識をより深く理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが豊かな発想をできるような授業環境を作る。 ・校内の清掃活動中の様子や給食の配膳時の盛りつけ方など児童の工夫を確実に見取り、賞賛の言葉かけをしたり、学級全体で紹介して広めたりする。 ・児童一人一人の考えを分類・整理して、課題に合った解決策に気付けるようにしたり、設定した条件の中で考えを選択したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で実践している調理や掃除の工夫をインタビューする活動を取り入れ、課題に関心をもって取り組めるようにする。 ・家庭での生活を振り返り、家族の一員としての意識を高め、実際に自分の知識や技能を生活に生かせる学習の場を設定する。 ・長期休業中を含め、家庭での実践を計画的に取り入れる。 ・児童が関心をもち、楽しく取り組んでいけるよう題材や資料などを工夫する。

令和5年度体育科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・めあてを明確化することで、児童が主体的に活動に取り組むことができた。
- ・運動会や体力テスト等の体育的行事を通して運動の楽しさや達成感を味わうことができた。

(2) 課題

- ・普段の授業におけるICTの活用が不十分であった。
- ・健康的な生活等については、自分の生活に生かそうとする態度に個人差が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題となる動きができるようにそれぞれの運動に楽しく取り組む。タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。	簡単な遊び方を工夫できるようにする。	個人に応じためあてがもてるように学習カードを準備する。振り返りでは自己評価を行う時間をとる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。(体育) 動画を視聴して、健康的な生活を送ることが体の発育・発達に関わることを理解することができる。(保健)	自己の能力に適した課題をもち、めあてを達成できるようにするための活動を工夫できるようにする。タブレットで自分の動きを撮影して運動のポイントを確認する。(体育)	めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動を楽しくできるように取り組む。(体育) 早寝早起きや朝ごはんを食べるなど、正しい生活習慣を身に付けることができるように取り組む。(保健)

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。(体育) 電子黒板で動画を視聴して、心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解する。(保健)	自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫できるようにする。タブレットでお互いの動きを撮影して、運動のポイントを児童同士教え合う場面をつくる。(体育)	めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体力を高められるよう取り組む。(体育) 病気やけがを予防するために、健康的な生活を送ることができるように取り組む。(保健)

令和5年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えや感想を伝えることができるようになった。友達の見聞を聞いて、さらに自分の考えを深めることができるようになった。
- ・虫探しやどんぐり拾いから身近な自然に触れ合うことができた。
- ・朝顔やミニトマトを育てる活動を通して、生長の変化を捉えて観察することができた。
- ・おもちゃ作りでどのように作ったら動くか、どのように遊んだら楽しく遊べるか等、グループで話し合いながら工夫して作ることができた。
- ・町探検を通して地域の人と触れ合ったり、自分たちの地域にはどのようなお店や公園、公共施設があるか理解を深めたりすることができた。
- ・学校探検などを通して、学校施設の様子や学校生活を支える人々について理解することができた。
- ・1・2年生の交流学習をもつことにより、互いに学び成長することができた。

(2) 課題

- ・四季の変化や季節を感じて、活動する。
- ・自然を利用した遊びや自然の不思議を感じ楽しむ活動を積極的に行う。
- ・公共物や公共施設を利用し、児童の生活に生かす。
- ・自分以外の人のことを考えて行動する体験を積ませる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然を観察したり、季節の行事に関わったりする活動を通して、違いや特徴を見付けることができるようにする。また、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付かせられるようにする。 (例：朝顔や野菜作り、季節ごとに校庭の木々の様子、自分たちが住む町の様子等) ・身近にある公共施設へ行き、皆で使う物や場所、施設を大切に正しく利用するためのルールやマナーについて学ぶことができるようにする。(例：図書館見学・駅・電車を利用する等) ・生命及び自然に対する興味や愛情を認め、さらに生命や自然に対する思考に至るような活動や言葉かけを工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人（友達、家族、学校や地域の人、公共施設で働く人）と関わる機会を多く設定し、自分とはどのような関係があるかを意識させる。 ・家庭における家族のことや自分でできることについて考え、自分でできることを増やしていく。 ・自分のことを支えてくれた人々について考える。 ・気付いたことを様々な方法（言葉絵、動作、ICT等）で表現できるようにする。 ・自分が考えたことや思ったことを伝え合う時間を十分にとることで、活動を振り返ったり自分と友達の見聞を比べたりすることができるようにする。また、交流し合うことを通して 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物に目を向け、地域との関わりをもてる活動を設定する。それにより、社会の一員としての安全で適切な行動をしようとする態度を育てる。(例：身近な公園や公共施設へ行き、公共物や公共施設の利用方法を学ぶ) ・日常的に動植物に触れる機会をもてるよう工夫する。それらを観察したり、体験したりすることにより、動植物に親しみを持ち、大切にすることを育む。 ・自分の願いや思いをもち活動させ、学習に対する意欲を更にもたせる。 ・対象と関わる中で知りたいことや疑問に思っていることを話し合い、児童が思いや考えをもって分から主体的に活動できるようにすることで、満足感や

<p>・自分自身を見つめる機会を通して、自分の生活や成長には身近な人々の支えがあることに気付けるようにする。</p>	<p>様々なことに気付き、新たな思いや考え、活動が生まれるようにしていく。</p>	<p>達成感を味わうことができるようにする。</p>
--	---	----------------------------